

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山田 恭子	所 属		グローバル教育支援機構アドミッション部門	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	担当する授業を通して、知識の定着、その知識の応用を図る。 具体的には講義の他、様々なアクティブ・ラーニングの手法を用いる。 その他、自らの専門分野を生かす場を探す。		0.20	担当した授業(教育心理学)の授業では、講義を行うとともに、内容に関わる問題を解かせる、その知識を用いて事例への対応策を考えさせるなど、知識の定着と応用を図った。 また、対話手法を取り入れたり、実際に学生に授業をさせるなど、アクティブ・ラーニングを行うことにも努めた。			
研究	0.20	専門分野に関わる学会に参加し、最新の知見を収集する。 学内だけでなく、他大学の教員と協働し、アクティブ・ラーニングや組織内外の課題解決のための手法の開発・推進を行う予定である。		0.10	専門分野の学会への参加は行わなかったが、他大学の教員との情報交換を行っている。 アクティブ・ラーニングや課題解決のための手法の開発・推進については、引き続き他大学の専門家と連携していく予定である。			
社会 貢献	0.20	高大接続改革推進ワーキンググループや高等学校訪問等を通じて、高等学校との情報交換を行い、高校生、受験生、大学生のためになる入試方法を模索する。		0.30	高大接続改革推進ワーキンググループの場や、そこに参加している高校教員と個別に対話している。また県内外の高校訪問時に情報交換や意見の収集を行った。その内容を入試方法の開発・高大接続改革に活かしていく。			
管理 運営	0.40	アドミッション部門の大きな目標である新しい入試の実施に向けて、1)各方面から情報収集を行う 2)収集した情報を用いてアドミッション部門内で方針について対話する 3)対話を基に一步踏み出す		0.40	1)入研協、シンポジウム、県内外の高校訪問、他大学のアドミッションセンター教員との情報交換を行い、情報収集を行った 2)その内容を部門内でシェアした 3)シェアした内容を基に、必要な広報策、高大接続の方法を検討し、次年度から実現していく。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山田 美都雄	所 属		グローバル教育支援機構 アドミッション部門	職 名		特命講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.10	共通教育科目の提供(大学COC事業への協力)		0.10	共通教育科目の提供			
研究	0.15	入試関連データを用いた分析・研究 科研費への応募		0.30	入試関連データを用いた分析・研究(新入生調査, 高校訪問高校生データ, オープンキャンパスデータ, 入学者選抜実施状況データ, 入試データの分析・研究)			
社会 貢献	0.10	高大接続改革に関する県内高校等との連携 自治体職員向け講座(大学COC事業)への協力(テーマ:社会調査)		0.10	高大接続改革に関する県内高校等との連携 自治体職員向け講座への協力(テーマ:社会調査)			
管理 運営	0.65	琉球大学における入学者選抜改革に向けた各種取組 アドミッション部門に関する各種会議 教学IRに関する会議 共通教育に関する会議		0.50	琉球大学における入学者選抜改革に向けた各種取組の推進 アドミッション部門に関する各種会議への参加 教学IRに関する会議への参加 共通教育に関する会議への参加			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		盛山 泰秀	所 属		グローバル教育支援機構アドミッション部門	職 名		特命教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.00				0.00			
研究	0.20	1, アドミッションの入試を研究し、高校現場の要望・意見を積極的に聴取して、新しい学生像を明確にする。			0.15	1, 平成32年度入試に向けて、情報の収集と課題・問題点の洗い出しを取り組んだ。県校長協会との連携にも心がけ、情報発信に努めた。高校現場からの意見の聴取は目標としたレベルに達していない。		
社会 貢献	0.40	1, 高校訪問を積極的に取り組むことで、琉球大学の求めている学生像を学校現場に伝え、琉球大学のブランドの向上と進学希望先として認知度を上げる。 2, 高大接続の取り組みを支援・コーディネートすることで、高校生に琉球大学のアドミッション・ポリシーの理解を進める。 3, 高等学校のPTA(父母会)等に積極的に働きかけることで、琉球大学への理解を図るとともに、志願者数の増加に取り組む。			0.50	1, 高校訪問は年度当初に積極的に実施した。また、課題や調査項目が発生した時期に迅速に対応できた。生徒への働きかけはまだ改善の余地がある。 2, 高校との支援コーディネートはまだ改革の余地がある。また、琉球大学のアドミッション・ポリシーは機会を捉えて発信したが、まだ取り組みを検討する必要がある。 3, 高校のPTAへの働きかけは当初の計画通り出来た。しかし、琉大のイメージアップに工夫が必要である。		
管理 運営	0.40	1, 琉球大学の受験に関する諸データを整理・分類することで、琉球大学の課題を洗い出し、今後の改善点を明確にして、高等学校への働きかけに取り組む。 2, 琉球大学の求める学生像を高等学校の生徒、職員に明確に伝えることで、進学後のミスマッチの軽減に努める。 3, 高大接続の取り組み形態を研究し、高校と大学の仲介を積極的に働きかける。			0.35	1, 受験に関するデータは入手出来る範囲内で、整理・分類・分析は出来た。琉大の問題もある程度見えてきたと思う。現在、受験産業等からの情報を整理している。 2, 進学後のミスマッチに関しては活動は不十分であった。 3, 高大接続の取り組みは工学部、医学部と順調に進めることが出来た。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西本 裕輝	所 属		グローバル教育支援機構授業支援部門	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	<p>共通教育においては例年通り「沖縄の学力と教育」等を担当する。専門教育においては教育学部心理臨床科学コースの協力教員として、ゼミ生8名(3年次3名、4年次5名)を指導するとともに、「心理臨床研究計画法」等の必修科目を担当する。大学院においては、臨床心理学専攻の専任教員として大学院生1名(M1)を指導するとともに「学級集団心理学特論」等の科目を担当する。</p>			0.25	<p>今年度は共通教育2コマ、専門教育7コマ、大学院教育3コマを担当した。共通教育において「沖縄の学力と教育」を開講し、約100名の学生が受講した。授業評価の結果から判断すると、評価は高かった。また専門教育においては、「心理臨床研究計画」等を担当し、これも高い評価を得た。また直接指導にあたった5名の4年次ゼミ生の就職率も100%(国家公務員1名、小学校教諭2名、大学院進学1名、JICA1名)と好調であった。また大学院においても例年どおり科目を担当し、ゼミで大学院生の指導にもあたった。よって教育の成果としてはおおむね良好であったと思われる。</p>		
研究	0.25	<p>今年度の外部資金に関連する研究として、個人研究としては科学研究費補助金(基盤研究C:16K04612)「沖縄の小中学生の学力向上に関する実証的研究～離島・へき地支援を中心に～」に取り組む。また共同研究として「アクティブラーニングによる学士課程教育の刷新とそれを可能にする組織開発」(基盤研究B:15H03488)に研究分担者として参画する。さらに学会活動としては、日本子ども社会学会の理事を務めるとともに、第23回大会を6月に琉球大学で開催すべく大会実行委員長を拝命し、シンポジウムの企画等に従事する。その他、教育学部紀要等に2本以上の論文を投稿する予定である。</p>			0.25	<p>科研費による個人研究では、離島と本島の学力格差の要因を分析するため、本島の公立小学校と離島の公立小学校において調査を実施した。離島へも3回訪問した。また共同研究においては、アクティブラーニングに関する理論研究を推進した。学会活動においては、名古屋大学において開催された日本教育社会学会第68回大会においては「学校(2)部会」の司会を務めた。また2016年に発行された学会誌『教育社会研究(第99集)』においても、書評を担当した。また6月に琉球大学において開催された日本子ども社会学会第23回大会においては、大会実行委員長として公開シンポジウムの企画・運営に関わるとともに大会を成功させた。論文執筆としては、『琉球大学教育学部紀要』に2本の論文を投稿し掲載された。また『大学教育センター報』に2本の論文を、さらに東京書籍の研究組織である中央教育研究所における研究にも参画し、1本の論文を執筆した。以上のように当初の予定を上回る活動に関わったことから、研究成果としてはおおむね良好であったと判断できる。</p>		
社会 貢献	0.20	<p>学力研究の専門家として、教育委員会等からの講演依頼について対応する。また沖縄県教育委員会委嘱の家庭教育推進委員会委員を引き続き担当する。関連して、岡山県教育委員会から委嘱された学力向上アドバイザーも引き続き担当する。さらに教員免許状更新講習も5コマ担当する。</p>			0.20	<p>講演活動については、沖縄県教育委員会からの依頼を受け、2月に平成28年度沖縄県家庭教育支援フォーラムの講師を務めた。また沖縄大学からの依頼を受け、5月に沖大土曜講座の講師を務めた。委嘱された委員については、岡山県教委において学力向上アドバイザーを務めるとともに、沖縄県教委委嘱の家庭教育推進委員会を務めた。特に沖縄県においては「児童生徒の生活実態調査」の企画・立案・分析を担当し、県内の小学5年生、中学2年生とその保護者全員、約6万人を対象とした大規模調査の指揮にあたり、報告書も執筆し3月に刊行された。さらに教員免許状更新講習も例年どおり5コマ担当し、約200名の受講生から高い評価を受けた。最後に、守秘義務があり詳細は記述できないが、日本学術振興会から委嘱された委員も務めた。以上のように当初の予定を上回る活動ができたことから社会貢献の成果は良好であったと思われる。</p>		
管理 運営	0.30	<p>グローバル教育支援機構授業支援部門長として各種の全学的な委員会活動に携わる。また引き続きURGCC推進支援室室長、授業支援部門会議委員長、グローバル教育支援機構会議委員長等を務める。また全学学士教育プログラム委員会副委員長として会議の進行役を務めるとともに、議題についての企画・立案に携わる。さらに新しく立ち上がる大学院教育プログラム委員会においても中心的な役割を担う予定である。</p>			0.30	<p>委員会関係としては、まず全学学士教育プログラム委員会の副委員長として、また今年度新たに立ち上がった、大学院教育プログラム委員会においては、石川学長補佐とともに、議題の調整、立案にかかわるとともに、進行役を務め、両委員会ともに運営面に全面的に関わった。特にその中で、全学的なルーブリック(いわゆるメタ・ルーブリック)を策定できたことは大きな成果であった。さらに3月には学外講師を招聘しての全学的なFD講演会として「大学教育におけるアクティブラーニング」を企画・立案、開催にかかわり、全学的なアクティブラーニングの推進に向け大きな弾みをつけた。新たに立ち上がった授業支援部門会議については、併任教員も決まり、定期的な開催を始めた。支援室(年度途中で開発室に名称変更)では、大学院生調査、学部生調査、教員調査、授業評価、シラバスチェック等、多くの調査の実施・分析を指揮し、教育改善に役立っているため全プログラムにフィードバックを行った。よって管理運営に関しての成果は良好であったと思われる。</p>		
計	1.00				1.00			
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p>					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		天野 智水	所 属		グローバル教育支援機構授業支援部門
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.15	①共通教育科目「大学教育論」を担当する(後学期1コマ). ②教育学部専門教育科目「教育社会学」(前・後学期に各1コマ)を担当する. ③人文社会科学研究科科目「大学組織特論」(前学期1コマ)および「大学教育マネジメント特論」(後学期1コマ)を担当する.		0.15	①共通教育科目「大学教育論」を担当する(後学期1コマ). ②教育学部専門教育科目「教育社会学」(前・後学期に各1コマ)を担当する. ③人文社会科学研究科科目「大学組織特論」(前学期1コマ)および「大学教育マネジメント特論」(後学期1コマ)を担当する.
研究	0.30	①個人研究を計画し, URA制度の支援を受けて科研費を申請する. ②広島大学高等教育研究開発センターが主催する国際共同研究推進事業の2つのプロジェクト(大学教育改善と大学ガバナンスがテーマ)に班員として加わり, 共同研究を実施する.		0.30	①個人研究を計画し, URA制度の支援を受けて科研費を申請する. ②広島大学高等教育研究開発センターが主催する国際共同研究推進事業の2つのプロジェクト(大学教育改善と大学ガバナンスがテーマ)に班員として加わり, 共同研究を実施する.
社会 貢献	0.05	①共通教育科目「大学教育論」を公開授業として登録する. ②本学訪問校の生徒に対する模擬授業を行う.		0.05	①共通教育科目「大学教育論」を公開授業として登録する. ②本学訪問校の生徒に対する模擬授業を行う.
管理 運営	0.50	①アドミッション部門長として多面的・総合的選抜方法の開発, 広報, 高大接続, および入試業務に携わる. ②全学的なFDの立案・実施に携わる. ③機構会議, プログラム委員会, および共通教育運営部門会議等の委員として意思形成に携わる.		0.50	①アドミッション部門長として多面的・総合的選抜方法の開発, 広報, 高大接続, および入試業務に携わる. ②全学的なFDの立案・実施に携わる. ③機構会議, プログラム委員会, および共通教育運営部門会議等の委員として意思形成に携わる.
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	葦原 恭子		所 属	グローバル教育支援機構国際教育支援部門留学生ユニ	
職 名			准教授		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.30	<ol style="list-style-type: none"> 共通教育科目を担当する際、学生のニーズ及びレディネス調査を十分に行い、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行う。課題を適宜提示し、フィードバックを適切に行うことで学生の能力を効果的に向上させる。 大学進学を希望している科目等履修生には日本留学試験に関する質問を適宜受け付け、自主学習の手助けをする。卒業後に日本または沖縄で就職を希望している短期留学生、学部生、大学院生の就職相談に応じ、就職支援事業への参加を促す。 日本語教育副専攻の日本語教授法の講義で学生のニーズとレベルに合わせるため、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行う。また、学生の進路相談に応じ、ニーズに合わせて適切なアドバイスをする。 アジア人財プログラムや他の就職支援事業の修了生に追跡調査を実施し、ビジネス日本語教育の向上のみならず、修了生の定着支援に貢献する。 日本語科目を受講希望している大学院生、研究生のコーディネータとして履修指導を行う。履修中は、博士論文、修士論文、レポート、研究発表用資料などの日本語添削と発表指導を行い、論文完成の一助となるべく務める。 	0.30	<ol style="list-style-type: none"> 共通教育科目を担当する際、学期の始めと終了後に独自のアンケート調査を実施することで、学生のニーズ及びレディネス調査を十分に行った。また、すべての授業で自主作成教材を使用し、質の高い授業を行うよう努めた。クォーター制度に適應するため中間テスト、期末テストを実施し、テスト結果が可視化できるグラフにして学習者に配布し、フィードバックを適切に行うことで学生の能力を効果的に向上させるよう努めた。 大学進学を希望している科目等履修生2名については、他大学受験用の受験準備指導をし、出席率証明書、推薦書を作成し、面接指導等を実施した結果、2名が沖縄県内の大学に合格した。また、他大学への研究生希望者については、他大学の教員や職員と連絡をとり、研究生受け入れの要請を行った。卒業後に日本または沖縄で就職を希望している短期留学生、学部生、大学院生の就職相談に応じ、就職支援事業への参加を促した。 日本語教育副専攻の日本語教授法の講義で学生のニーズとレベルに合わせるため、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行うよう努めた。また、学生の進路相談に応じ、推薦書を作成し、入社のための模擬授業指導をした結果、副専攻修了予定の4年次の学生が東京の大手日本語学校から専任講師として内定を得た。 アジア人財プログラムや他の就職支援事業の修了生に追跡調査を実施し、ビジネス日本語教育の向上のみならず、修了生の定着支援に貢献した。 日本語科目を受講希望している大学院生、研究生のコーディネータとして履修指導を行った。履修中は、博士論文、修士論文、レポート、研究発表用資料などの日本語添削と発表指導を行い、論文完成の一助となるべく務めた。 カケハシプログラムの引率教員のうちの一員としてウィンソンDCIに琉球大学の日本人学生を引率した。 	
研究	0.30	<ol style="list-style-type: none"> 科学研究補助金基盤研究(C)「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワーク構築のための調査研究」課題番号15K02644の研究代表者として、研究を統括し、国内での研究会及び海外調査を実施する。 沖縄県日本語研究会で1の科研究費研究の研究成果の一部を口頭発表する。 琉球大学国際教育センター紀要に1の研究成果を研究論文として投稿する。 	0.30	<ol style="list-style-type: none"> 科学研究補助金基盤研究(C)「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワーク構築のための調査研究」課題番号15K02644の研究代表者として、研究を統括し、国内での10回の研究会を実施した。また、タイ及び韓国で高度個人材についての海外調査を実施した。 沖縄県日本語研究会で1の科研究費研究の研究成果の一部を口頭発表すべく、応募し、査読を経て、採択されたため3月3日に発表予定。 琉球大学国際教育センター紀要に1の研究成果を研究論文として投稿し、2018年3月中旬に掲載予定。 琉球大学国際教育センター紀要に、ニュース発表授業に関する論文を投稿し、2018年2月刊行の第20号に掲載された。 新たな科学研究補助金を獲得すべく応募書類を作成し、応募した。 	
社会貢献	0.20	<ol style="list-style-type: none"> インターンシッププログラムのコーディネータとして、琉球大学日本企業インターンシッププログラムを実施し、沖縄県内で就職意欲がある留学生を発掘し、県内企業に優秀な留学生を就職させるべく努力する。 文部科学省の住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業コーディネータとして事業の運営、発展に努める。 2の事業について28年度の成果を留学生交流実務担当者養成プログラム(報告会)等にて発表する。 	0.20	<ol style="list-style-type: none"> インターンシッププログラムのコーディネータとして、琉球大学日本企業インターンシッププログラムを実施し、沖縄県内で就職意欲がある留学生を発掘し、県内企業に優秀な留学生を就職させるべく努力した。 文部科学省の住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業コーディネータとして事業の運営、発展に努めた。 2の事業について大阪・梅田の関西大学で開かれたフォーラムに出席し、沖縄コンソーシアムの取組み事例について発表した。 2の事業について文科省で開かれた中間審査に出席し、取組み状況を報告した。 2の事業について実施報告書、次年度計画書の作成に関わり、貢献した。 	
管理運営	0.20	<ol style="list-style-type: none"> STRPプログラム及びURSEPプログラムの受け入れ担当教員としての責務を果たす。また、協定校を訪問し、留学フェアに参加する。説明会を開催するなどして、交換留学による交流を促進し、交換留学生の獲得に努める。 国際連携担当者連絡会の委員として、与えられた職務を全うする。 国内の進学説明会に積極的に参加し、学生の獲得に努める。 ハラスメント防止対策委員会の委員としての職責を果たす JASSOの奨学金獲得すべく、申請書類等を作成に貢献する。 戦略1のワーキンググループ担当教員としての務めを果たす。 	0.20	<ol style="list-style-type: none"> STRPプログラム及びURSEPプログラムの受け入れ担当教員としての責務を果たした。また、ハワイ大学マノア校、ハワイ大学ヒロ校、カウアイコミュニティカレッジ、マウイコミュニティカレッジ、ミシガン州立大学を訪問し、留学フェアに参加する。説明会を開催するなどして、交換留学による交流を促進し、交換留学生の獲得に努めた。また同時に、琉球大学から派遣されている日本人学生と面談し、留学に関する相談に乗るなどサポートをした。 国際連携担当者連絡会の委員として、与えられた職務を全うした。 東京の進学説明会に積極的に参加し、学生の獲得に努めた。 ハラスメント防止対策委員会の委員としての職責を果たした。 JASSOの奨学金獲得すべく、申請書類等を作成に貢献し、STRPプログラム、インターンシッププログラムで奨学金を獲得した。実施報告書も作成した。 戦略1のワーキンググループ担当教員としての務めを果たした。 イースタンミシガン大学を訪問し、交流協定締結に向けた交渉を行ったことがきっかけとなり、イースタンミシガン大学から来訪者があり、協定締結に向けて交渉が進んでいる。 国際教育専門委員会委員として派遣面接官をするなど責務を全うした。 国際教育支援部門の新任教員採用にかかわる業務に携わり、貢献した。 グローバル文化祭の運営に関わり、与えられた職務を全うした。 	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		佐々木 香代子	所 属		グローバル教育支援機構 国際教育支援部門
職 名		准教授			
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	①授業内容およびレベルが履修登録した学生のニーズに合うよう、授業実施前にアンケートを行い、その結果を基にシラバスに適宜変更を加える。あるいは、学習者の反応を見て教材に修正を加えるなど授業の質の向上に努める。 ②今年度から提供する新規科目の授業内容の充実を努める。 ③「留学生を受け入れている指導教員のためのインフォメーションブック」を更新する。 ④学内外からの進学についての問い合わせに対応し、指導する。 ⑤県内の日本語学校に、オープンキャンパスの案内を出し、オープンキャンパスに来訪した留学生に情報を提供する。また、日本人学生に対しては、「短期留学」の宣伝に努める。		0.25	①授業内容およびレベルが履修登録した学生のニーズに合うよう、授業実施前にアンケートを行い、その結果を基にシラバスに適宜変更を加えた。また、学習者の反応を見て教材に修正を加えるなど授業の質の向上に努めた。 ②今年度から提供を始めた新規科目(日本の歴史1および2)の授業内容の充実を努めた。 ③「留学生を受け入れている指導教員のためのインフォメーションブック」を更新した。 ④学内外からの進学についての問い合わせに対応し、指導した。 ⑤県内の日本語学校に、オープンキャンパスの案内を出し、オープンキャンパスに来訪した留学生に情報を提供した。また、日本人学生に対しては、「短期留学」の宣伝に努めた。
研究	0.30	①(冲国大の)共同研究者とともに、沖縄県内在住外国人に対する沖縄語の使用・理解についてのインタビュー調査を行い、論文にまとめる。 ②「研究①」の共同研究者とともに開発を進めている「外国人のための沖縄語学習教材」出版のための資金を獲得する。		0.25	①(冲国大の)共同研究者とともに、沖縄県内在住外国人に対する沖縄語の使用・理解についてのインタビュー調査を行った。来年度春に論文を投稿する予定である。 ②「研究①」の共同研究者とともに開発を進めている「外国人のための沖縄語学習教材」出版のための資金は獲得できなかった。 ③来年度はサバティカルをとるが、サバティカル期間中にフィールドワークを予定している県外の療育施設を訪問し、研究を進めるための準備を始めた。
社会 貢献	0.30	①「知的障害児の言語獲得をサポートするための絵教材」を、学外の障害児教育従事者と連携しながら開発を進め、HPIにUPLし、知的障害児の教育に携わる人々が自由に利用できるようにする。 ②知的障害児の教科学習のためのAR教材を作成する。県内の中学校の特別支援学級で試用してもらい、フィードバックを得る。 ③「留学生のための災害対応マニュアル」を地域在住外国人向けに手直しし、留学生センターHPIにUPLし、災害時の対応について外国人が自由に情報を入手できるようにする。		0.30	①「知的障害児の言語獲得をサポートするための絵教材」を、学外の障害児教育従事者と連携しながら開発を進め、HPIにUPLし、知的障害児の教育に携わる人々が自由にできるようにした。 ②知的障害児の教科学習のためのARおよび3D教材を作成した。県内の中学校の特別支援学級で試用してもらい、フィードバックを得、修正を加えた後、特別支援学級の授業に使用してもらった。 ③「留学生のための災害対応マニュアル」を地域在住外国人向けに手直しし、現在、翻訳作業中である。年度内に国際教育センターHPIにUPLし、災害時の対応について外国人が自由に情報を入手できるようにする予定である。
管理 運営	0.10	①ハラスメント相談支援センター相談員として、対応に努める。 ②学生生活委員会委員として、委員会活動に務める ③新規渡日留学生対象の生活オリエンテーションで、減災の立場から、災害時および日頃の心得について説明する。		0.10	①ハラスメント相談支援センター相談員として、対応に努めた。 ②学生生活委員会委員として、委員会活動に務めた。 ③新規渡日留学生対象の生活オリエンテーション(4月と10月に実施)で、減災の立場から、災害時および日頃の心得について説明した。 ④タイワンキドクガ、インフルエンザ等、緊急に警告を要する事柄について、(利用するポスターがない場合は、独自に日英両言語でポスターを作成するなどして)掲示し、留学生に周知した。 ⑤国際教育センター留学生ユニットのニュースレターを年度内に国際教育センターHPIにUPする予定で、現在翻訳作業中である。
国際 交流	0.10	①地域の小中高等学校の児童・生徒と留学生との交流を図る。 ②久米島ホームステイを9月中旬に実施する。ステイ期間中に留学生と久米島高校の生徒が交流できるように、久米島高等学校と調整する。 ③12月初旬ごろに、他の教員とともに留学生のイベントを実施し、留学生と地域の人々との交流を図る。なお、病気や事故などが起きないよう、留学生の指導に努める。		0.10	①地域の小中高等学校の児童・生徒と留学生との交流会を、複数回実施した。 ②久米島ホームステイを9月8日～11日に実施した。ステイ期間中に留学生と久米島高校の生徒が交流できるように、久米島高等学校と調整し、交流会を実施した。 ③12月9日に、他の教員とともに留学生のイベント(グローバルフェスティバル)を実施し、留学生と地域の人々との交流を図った。その際、病気や事故などが起きないよう、留学生の指導に努めた。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山元 淑乃	所 属		グローバル教育支援機構国際教育支援部門留学生ユニット	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 日本人学生と留学生の合同授業の開講に取り組む。 協働学習による学習者主体の授業を行う。 初級、初中級コースのコーディネーターとして、非常勤教員と連携し、新日本語カリキュラムを円滑に運営し、継続的に改訂する。 			0.15	<ul style="list-style-type: none"> 留学生ユニット提供文化関連科目コーディネーターとして、日本人学生と留学生の合同授業4科目を提供した。 協働学習による学習者主体の初級文法授業を行った。 初級、初中級コースのコーディネーターとして、非常勤教員と連携し、新日本語カリキュラムのトラブルに対応し、円滑に運営した。 第三の科目群設立に向けた理念とカリキュラム改定案を提案した。 		
研究	0.40	科研と博士論文の研究テーマである「日本語学習者の発話キャラクタ獲得過程とその要因の解明」に関する研究を進める。			0.60	関連トピックについて、学会誌(1本)、紀要(1本)、著書(1本)に論文が掲載された。博士論文を執筆し、提出し、現在審査中である。		
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> 地域と留学生の交流活動等を企画、実施する。 地域にも開かれたFD等を企画し、実施する。 日本語教育学会支部活動運営協力員として九州沖縄地区の支部活動の運営に携わる。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> 地域と留学生の交流活動等の企画、実施に携わった。 地域にも開かれたFD等を企画し、実施する。 日本語教育学会支部活動運営協力員として九州沖縄地区の支部活動の運営に携わる。 		
管理 運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 委員を担当する委員会のメンバーとして責務を果たす。 URSEPプログラム、進学前予備教育コースのコーディネーターとして責任を果たす。 入試業務の責任を果たす。 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> 委員を担当する委員会のメンバーとして責務を果たした。 URSEPプログラム、進学前予備教育コースのコーディネーターとして責任を果たした。 入試業務の責任を果たした。 		
国際 交流	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 日本で進学や就職の希望を持つ交換留学生を積極的に支援し、優秀な人材の確保に貢献する。 外国語ユニットの教員と連携し、日本人学生の海外留学派遣を促進する。 URSEPプログラム等への優秀な留学生獲得を目指し、プロモーション活動を行う。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> 日本で進学や就職の希望を持つ交換留学生を積極的に支援した。特に太平洋島嶼地域出身留学生の編入学に向けて丁寧な指導を行った。 URSEPコーディネーターとして、JASSO奨学金申請書類を作成し、採択された。 		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	名嶋 義直		所 属	グローバル教育支援機構国際教育支援部門留学生ユニ	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 留学生向けの日本語授業と日本語教育副専攻授業との共習を試み、授業を通して異文化間理解や民主的市民性の涵養を目指す。 批判的リテラシーの涵養を目指した授業を行う。 日本語教育演習を行い、専門性の高い学びを求めるニーズに対応する。 	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 2つの授業で留学生向け日本語授業と日本語教育副専攻授業との共習を実施し、授業を通して異文化間理解や民主的市民性の涵養を図った。 全ての担当授業で、批判的リテラシーの涵養を目指した授業を行った。特に大学院向け授業では批判的談話研究の専門授業を前期後期とも開講した。 日本語教育演習を開講した。専門性の高い学びを求めるニーズに対応し、大学院生や学部生の修士論文研究・卒業論文研究の支援を行った。 	
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> 昨年受託の科研費・助成金を活用し、批判的談話研究と民主的市民性研究を推進する。 国内外の学会や国際シンポジウムで口頭発表を3回以上行う。 研究論文を1本以上執筆する。 書籍を1冊以上刊行する。 	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 受託の科研費・助成金を活用し、批判的談話研究と民主的市民性研究を推進した。編著1冊刊行(入稿済み、現在編集済)。 国内外学会3件、国際シンポジウム3件、計6件の口頭・ポスター発表を行った。 研究論文2本刊行(うち1本は査読付き海外にて刊行の論文集)。 単著1冊を刊行(入稿済み、現在校正中)。 	
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 民主的市民性教育に関する一般向けの小規模講演やワークショップを開催する。 国際交流活動を地域に開放し、多文化共生の発展を促す。 	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 一般向け書籍の出版を企画(執筆者と内容確定済み) 民主的市民性教育に関する一般向けの小規模講演やワークショップを名古屋・福岡の2箇所で開催した(2017年度から計5箇所開催)。 FDや日本語教育研究会を一般参加可能な形で企画・開催し、留学生教育を地域とともに考えることで多文化共生の発展を促した。 日本語教育学会理事(前期までで終了)、日本語用論学会運営委員(現在)を務める。 沖縄県日本語教育研究会 琉球大学委員 	
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 大学院委員会委員 日本語教育副専攻課程 主任 各種人事関連委員会委員 	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教育副専攻課程 主任 各種人事関連委員会委員(複数) 韓共同理工系学部留学生事業実施委員会委員 対外経済貿易大学(中国)、澎湖科技大学(台湾)、台南大学(台湾)、イースタンミシガン大学(米)との交流協定連絡調整責任者 留学生授業カリキュラム策定委員 	
	0.00		0.00		
計	1.00		1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		古川 卓	所 属	グローバル教育支援機構 保健管理部門	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	1. 共通教育科目「適応の心理」の担当。 2. 人文社会科学研究所人間科学専攻臨床心理学領域の担当。		0.20	1. 共通教育科目「適応の心理」を前・後期担当した。 2. 人文社会科学研究所人間科学専攻臨床心理学領域で、「臨床心理学基礎実習」「臨床心理学実習」を担当したほか、修士論文の指導も行った。	
研究	0.20	1. 臨床心理学分野の学会で研究発表、論文発表を行う。		0.10	1. 西日本心理劇学会第43回鹿児島大会で「保育・教育領域における心理劇の活用」というテーマでワークショップを行った。	
社会 貢献	0.10	1. 大学保健管理に関する団体での役員。 2. 臨床心理学分野の学会の役員。 3. 琉球大学公開講座への講座提供。 4. 地域の障がい者支援。		0.15	1. 全国大学保健管理協会評議員、国立大学法人保健管理施設協議会理事を務めた。 2. 日本臨床心理学会理事、日本リハビリテーション心理学会常任理事、西日本心理劇学会常任理事、日本学生相談学会理事を務めた。 3. 琉球大学公開講座を9講座開講した。 4. 沖縄本島、石垣島で行われた地域の障がい者とその家族の療育活動に協力した。	
管理 運営	0.25	1. ダイバーシティ推進本部委員。 2. 学生生活委員。 3. 学生相談室長。 4. 障がい学生支援室運営委員。 5. 教育・学生支援に関する自己点検・評価委員。 6. 全学情報システム技術専門委員。 7. 琉球大学臨床研究倫理審査委員。		0.30	1. ダイバーシティ推進本部の会議は行われなかった。 2. 学生生活委員会委員を務めた。 3. 障がい学生相談室長を務めた。 4. 障がい学生支援室運営委員を務めた(委員長)。 5. 教育・学生支援に関する自己点検・評価委員会委員を務めた。 6. 全学情報システム技術委員会は開催されなかった。 7. 人を対象とする医学系研究倫理審査委員会委員を務めた。	
診療	0.25	1. 学生とその関係者のカウンセリング。 2. 教職員のカウンセリング。		0.25	1. 学生とその関係者のカウンセリングを行った。 2. 教職員のカウンセリングを行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		崎間 敦	所 属	グローバル教育支援機構 保健管理部門	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	1. 保健管理センター医師として、学生定期健康診断における有所見者に対して健康教育を実施し、学生の健康増進をはかる。 2. 学内非常勤講師として、医学部学生への腎泌尿器疾患の系統講義を行う。 3. 共通教育で講義を担当し、学生の健康教育を行う。		0.30	1. グローバル教育支援機構保健管理部門医師として、学生定期健康診断における有所見者に対して健康教育を実施し、学生の健康増進を行った。 2. 学内非常勤講師として、医学部学生への腎泌尿器疾患の系統講義を行った。 3. 共通教育で講義を担当し、学生の健康教育を行った。	
研究	0.25	1. 英語原著論文を1本投稿する。 2. 日本語総説を1本投稿する。 3. 学会で研究成果を発表する。 4. 沖縄県一括交付金「健康行動実践モデル展開促進事業」のワーキンググループメンバーとして沖縄県の長寿復活に向けた調査を継続する。		0.25	1. 英語原著論文を1本投稿した。 2. 日本語総説を1本投稿準備を行った。 3. 学会で研究成果を発表した。 4. 沖縄県一括交付金「健康行動実践モデル展開促進事業」のワーキンググループメンバーとして沖縄県の長寿復活に向けた調査を継続した。	
社会 貢献	0.10	1. 県内の医師会や日本医師会生涯教育講座の講師として、地域医師の生涯教育や産業保健活動に貢献する。		0.10	1. 県内の医師会や日本医師会生涯教育講座の講師として、地域医師の生涯教育や産業保健活動に貢献した。	
管理 運営	0.25	1. 琉球大学千原事業場産業医として、安全衛生保健活動を行う。 2. 産業巡視報告を毎月作成する。 3. 安全衛生委員会へ参加する。4. ストレスチェック業務と職員健診のフォローアップと健康教育を行う。		0.25	1. 琉球大学千原事業場産業医として、安全衛生保健活動を行った。 2. 産業巡視報告を毎月作成した。 3. 安全衛生委員会へ参加した。 4. ストレスチェック業務と職員健診のフォローアップと健康教育を行った。 5. 第55回全国大学保健管理研究集会の事務局長として大会大会運営を行った。	
	0.10	1. 琉球大学千原事業場産業医として、安全衛生保健活動を行う。 2. 産業巡視報告を毎月作成する。 3. 安全衛生委員会へ参加する。4. ストレスチェック業務と職員健診のフォローアップと健康教育を行う。		0.10	1. 琉球大学千原事業場産業医として、安全衛生保健活動を行った。 2. 産業巡視報告を毎月作成した。 3. 安全衛生委員会へ参加した。 4. ストレスチェック業務と職員健診のフォローアップと健康教育を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 愛乃	所 属	グローバル教育支援機構	職 名	特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.70	<ul style="list-style-type: none"> ・特別編入学体制の整備 ・特別編入学生と琉大生との協働教育に関する取組み ・留学生の教育支援 ・県内コンソーシアムを活用した学生交流体制に関する取組み 		0.70	<ul style="list-style-type: none"> ・農学部・法文学部・観光産業科学部の部局担当者らにプロジェクト概要および要整備事項等を共有し、意見交換を行った。 ・編入学試験受験者2名(農学部・観光産業科学部)の編入学試験対策を実施した。また、国際教育課留学支援係及び国際連携推進課と協働し当該地域(パラオ、ミクロネシア、マーシャル諸島)から合計7名の学生を受け入れ、生活支援及び日本語支援などを行った。 ・在マーシャル日本国大使館より大使及び領事の来学があり、本プロジェクトへの積極的なサポートや編入学候補生らの推薦に関して尽力をいただいた。 	
研究	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生および留学経験者(卒業生含む)の留学効果測定調査 ・県内企業を対象とした留学生(特別編入学生)に対する人材ニーズ調査 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・BEVI(価値観推移測定調査)を利用し、学生の来学直後の価値観及び信条に関する調査を行い、それをもとにグローバル・プログラム津梁との協働イベント等の企画を行った。 	
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・太平洋島嶼地域に関連するイベントへの参画 ・フォーラムへの参画 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・RETI(島嶼間大学ネットワーク)2017 in Okinawa -島嶼地域の展望:持続性と自律性-を学生に周知し、4名の学生が参加した。 ・「世界津波の日」2017 -高校生島サミットin 沖縄を学生に周知し、3名の学生が参加した。また、当該地域の高校生および指導教員との懇談を行い、本プロジェクトに関する概要を説明した。 	
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略1の運営 ・留学制度の運営 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル・プログラム津梁と協働し異文化協働ワークショップ「フライデームービーナイト」を行い、編入学候補生らと日本語学生によるディスカッションの場を設定した。 ・円滑な編入学制度始動のため、入学金及び授業料免除に関する規定整備を行った。 ・グローバル・プログラム津梁と協働し学内IRフィードバックやコモンズ津梁運営として国際交流プログラム・留学等に関する制度周知を行った。 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	當間 千夏		所 属	グローバル教育支援機構開発室	
職 名			特命助教		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.10	本学学生向け学際・国際協働ワークショップ等の実施	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・本学教員の提案を受けて、東京オリンピック・パラリンピックより講師を招聘し、留学生と日本人学生の協働ワークショップ『オリンピック・パラリンピックにおける飲食事情』を実施した。 ・学際・国際協働演習の開講に向けて、国際協働ワークショップ『フライデームービーナイト』を実施した。 	
研究	0.00		0.00		
社会 貢献	0.10	・地域の人々によるグローバル津梁commons(仮)利用基盤整備及び促進	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル・commons津梁内で本学オープンキャンパス来場の高校生及び保護者に向けて、大学留学についての情報提供イベント『留学展』を実施した。留学経験者の体験談・留学や奨学金情報・留学相談窓口等を設置し、本学のもつ留学情報を提供した。 	
管理 運営	0.80	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館グローバル津梁commons(仮)の基盤整備及び周知、運用 ・琉球大学におけるグローバル人材育成活動に関する情報の一本化 ・教員、学生によるグローバル人材育成に関する企画の支援、促進 ・グローバルプログラム津梁ホームページの構築及び整備 	0.85	<ul style="list-style-type: none"> ・本学におけるグローバル人材育成活動に関する情報を集中するための場としてグローバル・commons津梁の利用体制を整備し、留学や語学、異文化交流等に関する講義・活動を誘致し、情報の集中を行った。 ・グローバル・プログラム津梁ホームページの構築及び整備を実施した。 ・甲南大学と共同で開発した語学参照基準『グローバル・モジュール』の運用に向けて、語学・異文化教育に関わる先生方に各講義のレベル設定に関するリスニング調査を実施した。 ・学際・国際協働演習の開講に向けて地域連携推進課・西原町との協力体制調整を行った。 <p>【グローバル・commons津梁運営の為の他機関調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同志社大学シンポジウム「ワーキング・commonsとラーニング・commons ～意欲的な学びを誘発する創造的な環境とは何か～」へ参加し、他大学・企業におけるcommonsの整備・活用状況について情報収集した。 ・近畿大学、京都産業大学、甲南大学におけるグローバル・commons、語学教育施設を視察するとともに、教職員との意見交換を実施し、グローバル教育施設における施設整備・運用に関する情報を収集した。 	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。